

交通の安全・環境・利便を目的として、交通システムの高度化を目指して発展している『ITS』の中で、身近なところでは、VICSによる道路交通情報の提供や自動料金収受システム(ETC)の他、バス接近情報提供システム(バスロケ)などが知られています。

路側通信システム専門委員会は、これらのシステムのうち、道路沿いに設置されてすぐそばを走行する車両と通信する「路側通信」の研究をしている専門家のグループです。

路側通信の中でも、おもに高速走行の車両と通信できる**DSRC**(狭域通信: Dedicated Short-Range Communication)という方式を、取り上げて研究してきました。ETCも、この**DSRC**の利用例の一つです。

【豆知識】 そもそも、DSRC(狭域通信)って?

~携帯電話の通信と比較して

携帯電話とDSRCの関係は、照明に例えると、部屋全体を照らす照明と手を照らすスポットライトや電気スタンドの関係であるといえます。二つの照明は、相反するものではなく、互いに補完し合う関係であるわけです。



高速道路などの通行料金の決済では場所と人を特定する必要があり、そのためETCでは、通信方式としてDSRCが採用されました。

【豆知識】 今後はどうなる?

ETC以外でも使える**多機能化**が今後の方向とされています。例えば、テレビ放送で例えると、当初は公共放送(NHK)しか映りませんでした。今ではたくさんの民間放送も楽しめます。

DSRCを使ったサービスも同様に、公共サービスのETCだけ 様々なサービスが利用できるように、研究が進められています。

あのETCも・・・



【豆知識】 多機能化に向けた取組み

1台のETC多機能型車載器で、様々なサービスが利用できるように、基本的な動作部分の取り決め（インターフェース）をまとめることが、現在の路側通信システム専門委員会の活動の柱の一つになっています。

基本的な動作とは、...

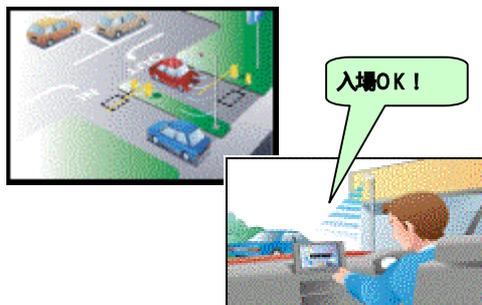
プッシュ型情報配信



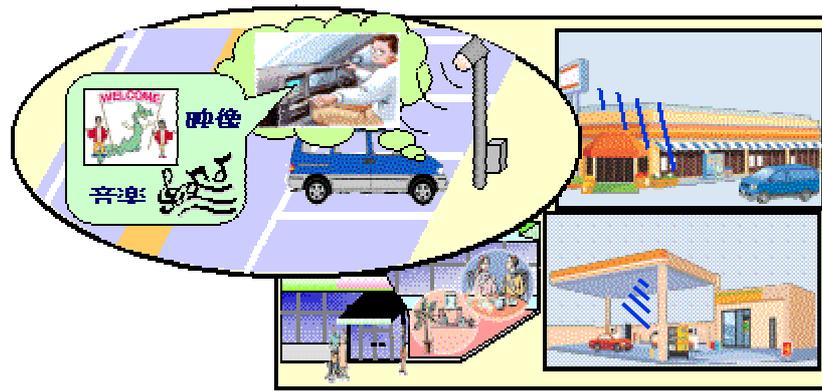
サービスはいろいろありますが、共通する基本的な動作があります。



車両識別（ID）の確認



車載器のメモリやICカードへのアクセス



このように、様々なサービスに必要な基本機能がきちんと働くことをいいます。現在、どの多機能車載器でも多様なサービスが区別なく受けられる環境を目指して、この通信のやり取りのガイドライン化に取り組んでいます。